

ISSN 2187-2589

英米文学英語学論集

第4号 March 2015

関西大学英米文学英語学会

現在背巾 9 ミリです

ISSN 2187-2589

KANSAI UNIVERSITY
STUDIES IN ENGLISH LINGUISTICS AND LITERATURE

No. 4

March 2015

Contents

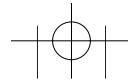
[Articles]

Hemingway's "Hills Like White Elephants"
..... Yoshiro Taniguchi

Uses of Humor in America
..... Mary Goebel Noguchi

[Distinguished Graduation Theses]

SOCIETY FOR THE STUDY OF ENGLISH LINGUISTICS AND LITERATURE,
KANSAI UNIVERSITY



英米文学英語学論集

第4号

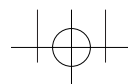
ISSN 2187-2589

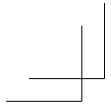
英米文学英語学論集

第4号 March 2015

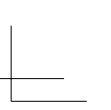
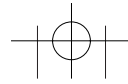
関西大学英米文学英語学会

関西大学英米文学英語学会

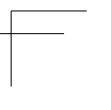
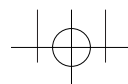
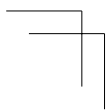
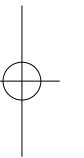




現在背巾 9 ミリです



(題字 堀 正人先生)



目 次

[研究論文]

ヘミングウェイの「白い象のような山並み」 谷 口 義 朗1

Uses of Humor in America Mary Goebel Noguchi 11

[優秀卒業論文]

2014 年度 25

〈2014年度 優秀卒業論文〉

〈卒業論文〉

- The Intelligibility of Australian English to
Japanese University Students
〈文学部卒業論文優秀者表彰受賞論文集掲載〉
- 足利悠衣
(文11 - 17)
- Edith Sitwell
—自然の力と人間—
- 芦高七美……………27
(文11 - 18)
- 『ヘルプ 心がつなぐストーリー』に見る
アメリカの人種差別と女性たちの絆
—多様なモチーフ、視点の移行、母娘関係を中心に—
- 荒木舞佳……………51
(文11 - 029)
- ウィリアム・ブレイク研究
—二つの詩集から—
- 中野里香……………68
(文11 - 497)
- Impression of Canadian English
- 成瀬紗希……………90
(文11 - 523)
- 『高慢と偏見』論
—結婚と社会—
- 平田沙耶香……………105
(文11 - 602)
- シンガポール英語の理解度と印象
—複合民族国家で生まれた新しい英語—
- 綿谷あずさ……………117
(文11 - 824)
- 国際結婚家庭の言語コミュニケーション
—親子の意思疎通における問題—
- 初田真里恵……………136
(文13 - 3003)

2014年度 英米文学英語学専修 卒業論文題目一覧

- 文11-002 相原由希 少女漫画に用いられるオノマトペの効果 —なくてはならない「ドキドキ」—
- 文11-010 赤松映里 日本語と英語の歌詞比較
- 文11-012 秋本 奏 ジェイン・オースティンゆかりの地を訪ねて —エマというヒロイン— (A Jane Austen Trail: Emma, A Heroine)
- 文11-013 秋山 葵 『ペーパー・ムーン』における子どもの姿 —「大人」と「子ども」を演じる子ども—
- 文11-015 浅田佳奈実 『十二夜』 —ロマンティックコメディ最高峰とその終焉—
- 文11-017 足利悠衣 The Intelligibility of Australian English to Japanese University Students
- 文11-018 芦高七美 Edith Sitwell —自然の力と人間—
- 文11-022 穴村謙二 東日本大震災の新聞記事における日本とアメリカの比較
- 文11-029 荒木舞佳 『ヘルプ 心がつなぐストーリー』に見るアメリカの人種差別と女性たちの絆 —多様なモチーフ、視点の移行、母娘関係を中心に—
- 文11-048 池永裕貴 アルフレッド・テニスン、空白の10年間
- 文11-069 井上真綾 日本人が着る奇妙な英語 —海外で馬鹿にされる日本のTシャツ—
- 文11-076 今西愛子 日本とアメリカのビジネスコミュニケーションの違い
- 文11-109 榎原志穂 非言語コミュニケーション —日本人とアメリカ人の違い—
- 文11-116 大栢世里奈 否定的評価における曖昧さ —日本人とアメリカ人を比較して—
- 文11-151 岡田理沙 Differences between Japanese and Americans in Refusals: Hierarchical Society vs Horizontal Society
- 文11-156 岡森瑞歩 『ロミオとジュリエット』論 —「愛」の完成としての「死」—
- 文11-166 奥村実加 音響音声学の可能性 —言語学から周辺分野への応用まで—
- 文11-168 小郷里佳 『ゲド戦記』論 —ユング心理学と非西洋思想を中心に—
- 文11-187 柿谷奈穂 バイリンガリズムとアイデンティティ —使用言語によるアイデンティティの変化—
- 文11-197 加藤あずさ 日英新聞報道の違い
- 文11-198 加藤 将 Intelligibility of Fijian English
- 文11-209 鎌田理星 Motivation of students who have overseas study experience
- 文11-216 川勝雪愛 アメリカの笑いを考える —ジョークの観点から—
- 文11-231 菊池佳奈 キャラクターにみる文化的差異 —日本とアメリカの比較を通して—
- 文11-232 岸本佳緒里 構文文法の分析 —is it (just) me or X 構文を用いて—
- 文11-237 北村優香 “Crow”におけるクロウの正体
- 文11-259 車戸 亮 三人称視点の種類と、その特徴及び効果についての考察
- 文11-265 古池麻祐子 Can people understand Japanese English?
- 文11-298 坂本 彩 ジョン・キーツ研究 —視覚からはじまる恋愛—
- 文11-316 塩谷泰基 動詞の規則性と不規則性、その修得について
- 文11-322 篠原千晶 『ジェイン・エア』論 —冒頭部分のクロスリーディングとテーマ分析について—
- 文11-328 清水笑子 感情の概念構造について —メタファーとメトニミーからの考察—
- 文11-374 鷹取伊織 俳句と英語訳 —山頭火と英語圏の翻訳者たち—
- 文11-375 高橋息吹 エドワード・リアのノンセンス・ワールド —結婚に対する憧れ—
- 文11-376 高橋香奈枝 Gender Roles and Images in Japanese and English Movies
- 文11-377 高橋 一 緑 日英語比較による翻訳の違い —夏目漱石の『こころ』の捉え方について—

- 文 11 - 404 田 中 亜 樹 *The Devil Wears Prada* に見る成長物語
- 文 11 - 408 田 中 友 也 なぜ、バイロンはダンテになったのか
- 文 11 - 412 田 中 美 穂 ジェンダーの観点から見た『白雪姫』
- 文 11 - 427 玉 置 千佳子 『チャーリーとチョコレート工場』論 —言葉遊びと映画比較を中心に—
- 文 11 - 443 寺 島 奏 スポーツオノマトペ —役割と可能性—
- 文 11 - 449 徳 島 愛 弓 遠慮 —日英を比較して—
- 文 11 - 450 徳 田 成 美 *Big Fish* に見る物語の二重構造 —語りによる父子の和解—
- 文 11 - 465 土 井 優 介 *Hamlet* と『忠臣蔵』に見る日本と西洋の復讐観
- 文 11 - 483 前 田 恵 美 バイリンガルのアイデンティティ変化について
- 文 11 - 490 中 辻 英梨子 マンスフィールド短編論 —エピファニー分析を中心に—
- 文 11 - 491 中 西 彩 香 ポライトネスの日英比較
- 文 11 - 497 中 野 里 香 ウィリアム・ブレイク研究 —二つの詩集から—
- 文 11 - 504 中 村 紋 茄 『ティファニーで朝食を』の結末はふさわしいか —子ども時代に傷ついたパーソナリティ—
- 文 11 - 519 永 田 詩央里 ジェンダーから見る児童文学『ラプンツェル』
- 文 11 - 523 成 瀬 紗 希 Impression of Canadian English
- 文 11 - 541 西 田 舞 成長物語としての『マジェスティック』 —空っぽのピーターが真の英雄になるまで—
- 文 11 - 571 長谷川 利 歩 『終わりのでまりの4日間』におけるアンドリューの自己再生
- 文 11 - 584 濱 中 雅 人 アメリカン・ニューシネマの映す現実 —逆説的に描かれるカウボーイ—
- 文 11 - 602 平 田 沙耶香 『高慢と偏見』論 —結婚と社会—
- 文 11 - 603 平 田 初 音 『ラプンツェル』論 —ジェンダーの観点から見た原作と映画の比較—
- 文 11 - 611 廣 田 絢 香 *Extremely Loud and Incredibly Close* における少年の成長 —鍵穴探しが導く再生の物語—
- 文 11 - 612 廣 田 真 実 英語の授業における動機づけ —生徒のやる気を高めるために—
- 文 11 - 617 福 井 梨 香 *The Machinist* における伏線の分析 —妄想の混淆と分身について—
- 文 11 - 643 藤 原 奈 葉 日本におけるロックンロール音楽の継承 —THE BAWDIES を例にして—
- 文 11 - 656 古 田 美 香 ジョン・キーツにおける宿命の女
- 文 11 - 659 干 場 丈一郎 Ted Conference に見る人を惹きつけるプレゼンテーション
- 文 11 - 682 松 井 美 樹 英語学習に適した環境 —教師の code-choice —
- 文 11 - 694 松 本 奈 那 メタファー —映画の台詞に見られるメタファーの分析—
- 文 11 - 699 丸 石 妹 里 文学作品から見るロボット —こころと身体の理想と現実—
- 文 11 - 713 南 川 真 衣 小説の翻訳にみる文化差 —『坊ちゃん』の英訳を通して—
- 文 11 - 715 蓑 田 緑 生徒への言葉かけとやる気の関係 —「がんばったね」と“Good job !” —
- 文 11 - 717 宮 井 裕 美 植物メタファー 日英対照研究
- 文 11 - 725 明 神 弘 昌 *The Purple Rose of Cairo* に見る現実フィクションの交錯
- 文 11 - 752 八 尾 千 春 視点による効果と読者の役割 —英米短編小説を中心に—
- 文 11 - 754 安 尾 未 来 洋楽における恋愛メタファー
- 文 11 - 759 柳 原 佳 奈 *Gattaca* における相補的關係による夢の達成
- 文 11 - 763 山 内 理 沙 日英語におけるポライトネス比較 —映画の中の依頼表現を通して—
- 文 11 - 766 山 崎 晴 菜 Metaphor and other figurative expression in headline
- 文 11 - 772 山 田 知 樹 『フランケンシュタイン』論 —入れ子構造と登場人物の変貌—
- 文 11 - 773 山 田 茂 明 中学校の英語の授業は実際どのようにおこなわれているのか? —現在と 80 年代の比較—

- 文 11 - 785 山 本 恵 未 About the difference of Japanese & English language — Through the translation of the movie —
- 文 11 - 793 横 田 紀 子 日米におけるコミュニケーション・スタイルの違い —日本人はシャイなのか—
- 文 11 - 802 吉 田 早 紀 音声学・音韻論から見る日本語と英語の違い —「ことば遊び」の視点から—
- 文 11 - 824 綿 谷 あずさ シンガポール英語の理解度と印象 —複合民族国家で生まれた新しい英語—
- 文 11 - 826 和田山 愛 Gender Differences in English and Japanese
- 文 13 -3003 初 田 真理恵 国際結婚家庭の言語コミュニケーション —親子の意思疎通における問題—
- 文 10 - 007 赤 尾 光 晃 クリティカルディスコース研究からみる捕鯨研究
- 文 10 - 092 入 川 真 美 *Extremely Loud & Incredibly Close* における死の受容と物語の共有
- 文 10 - 127 梅 本 和香奈 アイデンティティの模索と確率 —日系アメリカ人の視点から—
- 文 10 - 326 郷 秋 波 『緋文字』 —7年間における主要登場人物の心情変化—
- 文 10 - 567 丹 羽 美 咲 English in Sweden and Japan What makes Swedish people learn English better than Japanese people?
- 文 10 - 815 横 山 こころ ウィリアム・ワーズワス研究 —ワーズワスが描く光と色—
- 文 10 - 836 脇 田 育 歩 *THE COLOR PURPLE* におけるセリーの変化 —縫い物、衣服観を通して—
- 文 12 -3003 松 宮 克 佳 日英ことわざ比較研究 —ことわざから考察する文化特質と国民性—
- 文 09 - 071 伊 野 貴 人 *Hamlet* における復讐の行使とその悲劇 —復讐が生む悲劇とその意味—
- 文 09 - 182 沖 采 海 英詩における紅茶の役割
- 文 09 - 409 志 賀 亮 介 日本の教科書におけるステイヴンスンの詩
- 文 08 - 667 中 島 英 子 『フィビーズ・イン・ワンダーランド』 —真の自分を探して—

2013 年度 英米文学英語学会会計報告

(平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)

収入の部		支出の部	
前期繰越金	2,845,780 円	「英米文学英語學論集」2号印刷代	467,250 円
新2年生会費(26名分)	312,000 円	封筒印刷代	11,025 円
特別会費	30,000 円	郵送料	17,820 円
利息	384 円	新2年生歓迎会	37,962 円
		会議費	37,040 円
		第2回英米文学英語学会開催費	28,500 円
		合同研究室配架映像資料	99,858 円
		消耗器具備品費	125,386 円
		図書券代	24,000 円
		雑費(振込料・文具)	5,357 円
		次期繰越金	2,333,966 円
合 計	3,188,164 円		3,188,164 円

2013 年度英米文学英語学会会計報告について監査を行った結果、適正なものであることが認められますのでその旨証明いたします。

執筆者紹介

谷 口 義 朗 (本学教授) 野 口 メアリー (本学教授)

査読編集委員会

Fred E. Anderson (本学教授) 岩 田 彩 志 (本学教授) 高 橋 美 帆 (本学教授)
* 谷 口 義 朗 (本学教授) 野 口 メアリー (本学教授) 干 井 洋 一 (本学教授)

* 編集代表

学会開催報告

関西大学英米文学英語学会・関西大学英語学会・関西大学大学院英語英米文学研究会 共催研究大会が2014年10月11日(土)13時より関西大学第1学舎1号館 A601・602にて次のように行われました。詳細は以下のとおりです。

[卒論構想発表会]

A601

相原 由希 (岩田ゼミ) 「少女漫画に用いられるオノマトペの効果 ―なくてはならない『ドキドキ』―」
司会 岩田彩志

鎌田 理星 (野口ゼミ) “Motivation and Overseas Study Experience” 司会 野口メアリー

丹羽 美咲 (Anderson ゼミ) “English Education in Japan and Sweden” 司会 Fred E. Anderson

中西 彩香 (野口ゼミ) 「ポライトネスの日英語比較」 司会 野口メアリー

A602

荒木 舞佳 (秋元ゼミ) 「『ヘルプ 心がつなぐストーリー』について ―白人視点から黒人視点への移行に見るスキーターの成長―」 司会 秋元秀紀

芦高 七美 (高橋ゼミ) 「Edith Sitwell ―自然の力と人間―」 司会 高橋美帆

中野 里香 (高橋ゼミ) 「ウィリアム・ブレイクにみる二項対立」 司会 谷口義朗

[研究発表]

A601 英語学

中野阿佐子 (D1) 「形容詞『こわい』『おそろしい』の一考察 ―コロケーションに見る類似点・相違点―」 司会 岩田彩志

藤本 雄馬 (D2) “The Intelligibility of English with a Japanese Accent: Defining a continuum based on phonetic Features” 司会 Fred E. Anderson

玉木 雄三 (元堺女子短期大学教授) 「Mid と With ―その競合の軌跡―」 司会 谷口義朗

A602 英米文学

指出 尚枝 (M1) 「スペンサーの白鳥の歌 ―『プロサレイミオン』再考―」 司会 高橋美帆

加藤 明子 (M2) 「『ハリリー・ポッター』における善と悪の対立」 司会 干井洋一

上村 周平 (D2) 「『指環物語』における指環の起源」 司会 干井洋一

[講演] 「詩的言語とはどのようなものか ―ロチェスター卿とキーツを例として―」 講師 桂山 康司¹

¹ 京都大学大学院准教授 日本ミルトン協会会長

【編集後記】

本年度をもって坂本武教授が退職される。坂本先生は、1974年4月に文学部英文学科(当時、現在は英米文学英語学専修)に着任され、以来41年の長きにわたって教育研究に励まれてきた。主な研究業績として、高い評価を得た『ローレンス・スターン論集―創作原理としての感情』(関西大学出版部、2001)がある。その他の業績、履歴等の詳しい紹介は、先生の御退職記念として企画されている別の論文集に譲る。ここでは先生の今後のご健康と変わらぬご活躍をお祈りしておきたい。

今年度は本論集への投稿が少なめだった。来年度はふるってのご投稿をお願いします。今年度も皆様、お疲れ様でした。

『英米文学英語学論集』投稿規定

- 1 投稿資格
本会の会員であること。その他、評議員会で適当と認められた者。
- 2 投稿論文及び翻訳
投稿論文は、未発表の学術論文であること。口頭発表を基にした論文は、その旨を明記すること。論文の長さは、和文の場合四〇〇字詰め原稿用紙三五枚程度、英文の場合七〇〇語程度。なお、投稿原稿は返却しない。
翻訳は本邦初訳であり、かつ著作権上の問題が発生せず、研究上の意義が認められるものに限る。
- 3 投稿の採否
投稿原稿の採否は、査読編集委員会あるいは同委員会が委嘱する査読者の評価に基づいて、査読編集委員会が決定する。
- 4 書式上の注意
 - i 注は本文の末尾にまとめる。
 - ii 注のナンバーは肩付き、数字はアラビア数字（かっこなどで枠付けしない）を用いる。
 - iii その他、書式の細部については次のいずれかの規定に従うこと。
 - ① *MLA Handbook for Writers of Research Papers* (Fifth Edition)
 - ② 『MLA英語論文の手引』（第5版）（北星堂）
 - ③ 日本英語学会機関誌 *English Linguistics* 投稿規定
 - ④ *The Chicago Manual of style* (Fifteenth Edition)
 - ⑤ *A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations*
 - ⑥ *APA (American Psychological Association) Style*
 - iv 日本語による論文には英文タイトルを付すこと。
- 5 原稿締め切り
原稿の締め切りを原則として毎年12月末とし、翌年3月までに刊行するものとする。
- 6 電子化による公開
投稿した論文等が本論集に掲載された場合、投稿者はその論文等が関西大学学術レポジトリに登録されることを許諾したものとす。ただし投稿者本人の事前の申し出により登録を辞退することができる。

（投稿規定改正 二〇一五年二月）

関西大学英米文学英語学会会則

第一条 本会は関西大学英米文学英語学会と称しその事務局を関西大学文学部総合

人文科英米文学英語学専修合同研究室に置く。

第二条 本会は英語学・英米文学の研究の促進と研究成果発表を目的とする。

第三条 本会は第二条の目的を達成するために次の事業を行なう。

一、機関誌『英米文学英語学論集』の刊行。

二、その他、大会、総会、談話会、講演会など、本会が必要と認めたこと。

第四条 本会は次の者をもって会員とする。

一、本学文学部総合人文科学科英米文学英語学専修の専任教員。

二、本学文学部総合人文科学科英米文学英語学専修及び同大学院文学研究科

英文学専修の学生。

三、右の卒業生及び修了生であつて本会に入会を認められた者。

四、本学文学部英文学科(旧)の在職経験者中の入会希望者。

五、本学の名誉教授その他評議員が推薦した者で入会を希望する者。

第五条 本会に次の役員をおく。

一、会長 長(一名)は評議員の互選によりこれを選出する。

二、副会長 副会長(一名)は会長が指名するものとする。

三、評議員 第四条第一項の会員が評議員の責務を負うものとする。

四、委員 委員若干名は評議委員会で決定する。委員は編集・会計・

会計監査及び広報を分担する。

第六条 役員の任期は二年とし、再任を妨げない。

第七条 会員は会費年額三千円を納入する。但し、第四条第一項に該当する者は年

会費五千円を納入する。

第八条 会員は機関誌の配布を受けるとともに、これに執筆寄稿することができる。

第九条 この会則の変更は評議員の議決による。

(会則改正 二〇一四年二月十四日)

英米文学英語学論集 第4号

2015年3月19日発行

編集兼 関西大学英米文学英語学会
発行人

印刷所 石田大成社
〒604-0087 京都市中京区丸太町通小川西入

発行所 関西大学英米文学英語学会
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

[非売品]